

# 令和3年度 京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>知情意体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。</p> <p>1 確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。</p> <p>2 豊かな心【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともにボランティア精神を養う。</p> <p>3 強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。</p> <p>4 頑健な身体【体】 自他の生命を大切にし、健康でたくましく生きる体力を育む。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 系統的かつ計画的に進路指導を行い、12年連続で就職内定率100%につながった。</p> <p>(2) 京都フロンティア校（地域創生推進校）として、これまでの成果を継承し、体験型学習としてのアクティブラーニングをさらに深化させ、インターネットショッピングモール「くるせる」やICT機器を駆使した地域の情報発信等、一歩進んだ学習活動を展開させることができた。</p> <p>(3) 様々な学力層の生徒が混在する中で、各教科で授業の進め方や教材などを工夫したり、多面的な学びを提供できた。特に前年度から京都府教育委員会が取り組む「スマートスクール推進事業」が、コロナ禍で加速的に取り組まれるなか、教室に配備された最新の電子黒板や教師用タブレット端末等のICT機器を活用した質の高い授業についての研究と実践を推し進めることができた。</p> <p>また、第2学期後半から同じく京都府教育委員会が取り組む事業である「セカンドラーニング教室」を活用し定期考査前の特別講習を実施し基礎学力の向上に繋がった。</p> <p>(4) マナーアップを目指し、登校時に生徒指導部をはじめ学年部の教員が校門での積極的な声かけ等、年間を通して取り組むことができた。また、課題となっていた問題行動もねばり強い指導によって改善され、特別指導を行う事案は無かった。</p> <p>(5) コロナ禍ではあったが、授業や部活動において、専門的な知識・技能を高める指導により、優秀な成績を収めることができた。成績については以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KOBЕ HIGHSCHOOL JAZZ-RALLY（団体）ヤマハ特別賞（個人）優秀個人賞</li> <li>・第27回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園 近畿ブロック本戦決定戦進出」（WEB開催）</li> <li>・第40回近畿高等学校総合文化祭 奈良大会 出展（WEB開催）</li> <li>・第16回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール2020」ポスター部門 優秀賞&lt;公益社団法人京都府防犯協会連合会&gt;</li> <li>・京都SKYセンターマスコットキャラクター 最優秀企画デザイン賞</li> <li>・世紀のダ・ヴィンチを探せ！高校生アートコンペティション 入賞</li> <li>・令和2年度京都府高等学校商業実務競技会（オンライン）【団体】準優勝【個人】第2・5位・8位</li> <li>・令和2年度「税に関する高校生の作文」福知山地区租税教育推進協議会長賞</li> <li>・YouTube甲子園2021 優秀賞</li> </ul> <p>(6) 教務部長を主幹とする系統長会議を定例化することができた。1年次は同じ教育課程で学ぶため、主に教科「産業社会と人間」の教育内容について研究し、各系統長が共通理解するなかで2年次に繋がる教育活動を実践することができた。また、各教科において各系統で次年度に展開する科目についてのシラバスを作成し、具体的な指導内容と評価について策定することができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 新学科「地域創生科」の完成年度である令和4年度での的確な目標を策定し、それにむけた具体的な取組をさらに推進する必要がある。</p> <p>(2) 学習指導については上記のとおり一定効果が見られるが、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しや、応用力を身に付けるための手立てを検討する必要がある。</p> <p>(3) 部活動については、加入率が低くなり苦慮している。部活動の意義や効果について広く指導し活性化を図る必要があることから、組織的に運営するための指針の作成や人員配置が必要である。</p> <p>(4) 昨年度に続き、新学科「地域創生科」の中学生及び保護者に対する教育課程等、教育内容の周知が十分に進まず、生徒募集においても定員を大きく下回ることとなった。ホームページの更新や地域創生科ニュースを通じて工夫を試みたが成果が上がっていないのが現状である。次年度においては、地元中学校への広報誌の作成・配付や訪問をとおして本校の教育内容について、一層周知を図ることが必要である。</p> <p>(5) ICT機器を活用した質の高い授業についての研究を一層推し進め、特に令和4年度入学生全員が個人用タブレット端末を購入することとなるため、それを活用した効果的な学習システムの構築が課題である。</p>	<p>1 組織・運営</p> <p>(1) 前年度までの教育活動を省み、課題解決に向けた取組を推進するとともに、指標を設け、成果の「見える化」を図る。</p> <p>(2) 新学科「地域創生科」が、令和4年度に完成年度を迎えることから、教育課程に位置づけられた教育内容の研究を推進する。</p> <p>(3) 今年度までの3箇年、志願者数が大きく定員を下回ったことから、中学校への出張説明会やマスメディア及びホームページを通じた広報活動を展開し、「地域創生科」の周知に努め志願者数の増加を図る。</p> <p>(4) 働き方改革を推進し、業務の効率化を図るとともに複雑化・多様化する課題に的確に対応できる組織づくりを行う。また、月1回のノー残業デー（給与支給日）、考査期間中のノー会議、タイムマネジメントアクション（午後8時以降のやむを得ない業務の管理職への申告）等の具体的な取組をとおして勤務時間の縮減を図る。</p> <p>(5) いじめ防止の取組、防災教育・交通安全教育、環境美化を推進し、安心・安全な学校環境を構築する。また、喫緊の課題となっている新型コロナウイルスへの対応について、生徒及び教職員が高い意識を持ち、早期収束に向け対応する。</p> <p>2 学習指導</p> <p>(1) きめ細かく粘り強い指導を行うとともに、個に応じた学力の向上を図り、全生徒が「第1希望の進路が実現でき、本校に入学して良かった」と実感できるように努める。</p> <p>(2) 改定京都府教育振興プランに明記された「教育環境日本一」への取組の一環として、配備された電子黒板やタブレット端末等のICT機器を効果的に活用し、「スマートスクール京都一」を目指す。</p> <p>3 生徒指導</p> <p>(1) 社会人基礎力を身につけるために必要なマナーアップを3つの視点からさらに推進し、将来地域を担う人材の育成につなげる。</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 公共交通機関での乗車マナーの向上及び通学路でのマナーアップによって、社会の一員としての規範意識を高める。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ あいさつの励行、携帯電話の使用、ゴミ・環境問題など、校内でのマナーアップに努め、安心・安全で清潔な学校環境づくりに取り組む。</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 積極的な授業態度や家庭学習の習慣化により、学ぶ姿勢の育成と基礎学力を向上させる。</p> <p>(2) 生徒の多様な学びの場としての教育意義が大きい部活動の活性化を図る。</p> <p>(3) 近年危惧されている大麻などの薬物乱用について、日常的教育活動全体を通じて生徒への啓発や家庭への情報発信に努め、その防止に務める。</p> <p>4 進路指導</p> <p>(1) 就職について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 多様な生徒が在籍することを踏まえ、地元企業を中心として幅広い求人開拓を行い、希望や適性に応えられる環境整備を図る。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 放課後の就職講習を実施するなど、早い段階から系統的かつ計画的に進路指導を行い、1次内定率の向上を図る。</p> <p>(2) 進学について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 早期に目標設定を行うことにより、学校推薦型選抜と総合型選抜、一般選抜等に対応した学力の養成を図り、第1志望の上級学校に進学させる。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 進学対象者を中心とした、放課後や長期休業中の講習を実施し、上級学校の選抜に応じた学力を身に付けさせる。</p>

評価領域	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題								
組織・運営	魅力ある学校づくりの推進と学びに向かう教職員集団の醸成	<p>令和4年度に完成年度を迎える総合学科「地域創生科」における具体的な学習内容・学習方法についてさらに研究を深める。また、学習活動に「学び合い」「ICTの活用」を積極的に取り入れるなど、自ら授業改善に取り組み、生徒の主体性を引き出し、学力のより一層の伸長を図る。</p> <p>〔学校経営計画における具体的方策の評価A及びBの割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満		
	A	B	C	D								
	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満								
広報活動の推進による「地域創生科」の周知	<p>中学校での説明会への参加や広報誌の配付を通して、中学生や保護者に本校の特色ある教育内容の魅力を発信し、志願者の増加を図る。</p> <p>〔本校活動が新聞等に取り上げられた件数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>40件以上</td> <td>30件以上</td> <td>18件以上</td> <td>18件未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40件以上	30件以上	18件以上	18件未満			
A	B	C	D									
40件以上	30件以上	18件以上	18件未満									
生徒・保護者・地域に信頼される安心・安全な学校環境の構築	<p>マナーアップの指導をさらに推進することにより、全生徒が安心して生活できる教育環境を構築するとともに、新型コロナウイルス感染症について、生徒及び教職員が高い意識を持って対応し、感染の拡大防止・早期収束に向けて取り組む。</p> <p>〔学校評価アンケートの項目「学校生活は充実している。自分の将来に有益である」に対する「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した生徒の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>75%以上</td> <td>75%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	75%以上	75%未満			
A	B	C	D									
90%以上	80%以上	75%以上	75%未満									
教務部	授業力向上	<p>生徒の力を伸ばすために、タブレット端末や電子黒板などのICT機器を活用するなど、教材や授業方法を工夫し、分かりやすい授業を展開する。また、学習環境を整え、生徒が集中して授業に取り組めるようにする。</p> <p>〔ICT機器を活用する授業の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満		
	A	B	C	D								
	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満								
学科改変	<p>地域創生科開設2年目に当たり、系統別学習の本格的実施となる。新科目の授業内容を具体化し、スムーズな立ち上げを図る。</p> <p>〔地域創生学(演習)の生徒の授業満足度〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	70%以上	60%以上	60%未満			
A	B	C	D									
90%以上	70%以上	60%以上	60%未満									
効果的な広報活動	<p>学校説明会、オープンスクール、中学校訪問の機会を通じて、本校の魅力を中学生、保護者に積極的PRし、志願者の増加を図る。</p> <p>〔前期選抜及び中期選抜における募集定員に対する志願者数の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	70%以上	50%以上	50%未満			
A	B	C	D									
100%	70%以上	50%以上	50%未満									
事務部	生徒・教職員が安心・安全な学校生活を送れる環境づくり	<p>短期経営計画に基づき、教育内容の充実のために適切な予算の計画的効果的な執行を図る。</p> <p>危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理を行う。</p> <p>〔教科・分掌予算の要望に対する充足度〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満		
	A	B	C	D								
	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満								
組織的な学校運営	<p>生徒の修学援助通知等を徹底し申告漏れのないようにする。学年や分掌と連携し、学校課題の解決に向けた校務運営に参画する。財務・会計事務の適切な執行を行う。</p> <p>〔申請者のうち、提出期限内に提出された割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満			
A	B	C	D									
95%以上	80%以上	50%以上	50%未満									
信頼される学校を念頭に おいた窓口業務及び電話対応	<p>開かれた学校づくりを担う事務部として、来客・電話応答について丁寧で温かい対応を行う。</p> <p>生徒に社会規範を基礎とした窓口対応を行う。</p> <p>〔学校評価アンケートによる保護者の本校に対する満足度〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満			
A	B	C	D									
95%以上	80%以上	50%以上	50%未満									

第1学年部	規律ある正しい生活習慣の獲得	挨拶・言葉遣い・振る舞いなど社会人として必要なマナーを身につけさせる。 〔アンケートによる社会人に必要なマナーが身についたと評価した生徒の割合〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満											
	A	B	C	D																	
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満																		
学力の定着	さらなる学力の伸長を図り、他校生徒に対抗できる学力をつけ、競争に負けない生徒を増やす。 〔学年末の評定平均が4.0以上の生徒の割合〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25%以上</td> <td>20%以上</td> <td>10%以上</td> <td>10%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	25%以上	20%以上	10%以上	10%未満												
A	B	C	D																		
25%以上	20%以上	10%以上	10%未満																		
第2学年部	ICT機器の積極的な学習への活用	ICT機器、スタディサブリなどを活用できる知識を身につけ、自ら積極的に学習に生かす習慣を身につけさせる。 〔休業中を含めた学習教材視聴・利用人数〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28人</td> <td>20人以上</td> <td>14人以上</td> <td>14人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	28人	20人以上	14人以上	14人未満											
	A	B	C	D																	
	28人	20人以上	14人以上	14人未満																	
地域創生科1期生としての自覚の向上	系統別学習やインターンシップなどを通して個々の住む地域への関心を高め、自らの進路実現に向けての具体的な目標を見つけられるよう指導する。 〔インターンシップ等の取組における満足度〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>75%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	75%以上	60%以上	60%未満												
A	B	C	D																		
90%以上	75%以上	60%以上	60%未満																		
マナーアップ	1年後を見据えて挨拶の励行、正しい制服の着こなしなど日々の声かけを重視する。生徒とのより良い人間関係を構築するため、家庭との連携を密にする。 〔アンケート調査によるマナー意識向上率〕スタディサブリにて年3回実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満												
A	B	C	D																		
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満																		
第3学年部	希望進路の実現	進路指導部と連携しながら、個々の生徒に具体的な進路のスケジュールを把握させ、自らが主体的な活動を展開できるように指導を行う。 〔進学における一次合格率〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table> 〔就職における一次内定率〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満			
	A	B	C	D																	
	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満																	
A	B	C	D																		
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満																		
第3学年としての自覚と責任	将来の社会人としてのあり方や生き方を考えさせ、社会生活の中での言葉遣いや身だしなみ、マナーの定着やスキルアップを図る。進路決定後も目標を持たせる指導を行う。 〔各種検定試験合格者数（のべ人数）〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36人以上</td> <td>26人以上</td> <td>20人以上</td> <td>20人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	36人以上	26人以上	20人以上	20人未満												
A	B	C	D																		
36人以上	26人以上	20人以上	20人未満																		
進路実現に向けた学力の定着	各教科及び分掌と連携し、日々の学習活動の様子を常に把握し、進路実現と卒業に向けて丁寧な指導を行う。 〔学年末の評定平均が4.0以上の人数〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14人以上</td> <td>11人以上</td> <td>8人以上</td> <td>8人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	14人以上	11人以上	8人以上	8人未満												
A	B	C	D																		
14人以上	11人以上	8人以上	8人未満																		

保健部	健康安全教育の充実	<p>新型コロナウイルスに関する知識や感染予防対策について周知し、正しい知識を身に付けさせ、感染予防対策が実行できる生徒の育成に努める。</p> <p>〔保健だよりの発行回数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年20回以上</td> <td>年15回以上</td> <td>年6回以上</td> <td>年6回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	年20回以上	年15回以上	年6回以上	年6回未満			
	A	B	C	D									
年20回以上	年15回以上	年6回以上	年6回未満										
特別支援教育の充実	<p>個別の教育指導計画の作成と活用を推進し、生徒の困り感に寄り添ったきめ細やかな支援の充実を図る。</p> <p>〔個別の教育指導計画を活用した支援の実施状況〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	80%以上	50%以上	50%未満				
A	B	C	D										
100%	80%以上	50%以上	50%未満										
生徒指導部	社会人基礎力の習得	<p>学年部と連携し、全教職員で徹底して身だしなみ指導を行う。 あいさつ、言葉遣い、振る舞いなど社会人として必要なマナーを身につけさせる。 薬物乱用、ネットトラブル等の講演会・研修会を実施して積極的な指導を行う。 問題行動を未然に防ぐよう指導を行う。</p> <p>〔生徒指導に係る特別指導件数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0件</td> <td>5件未満</td> <td>10件未満</td> <td>10件以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	0件	5件未満	10件未満	10件以上			
	A	B	C	D									
0件	5件未満	10件未満	10件以上										
生徒の活力の向上	<p>生徒会とも連携して部活動の活性化に向けた取組を行う。 従来の行事等を継続且つ充実させる。 部活動組織の有り様を考える。</p> <p>〔部活動加入率〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>30%以上</td> <td>30%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60%以上	50%以上	30%以上	30%未満				
A	B	C	D										
60%以上	50%以上	30%以上	30%未満										
進路指導部	基礎学力の定着、さらなる学力の向上の実践	<p>放課後の進学・就職講習、模試を計画し実施する。</p> <p>〔進学・就職講習参加者の割合（3年生）〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>40%以上</td> <td>40%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60%以上	50%以上	40%以上	40%未満			
	A	B	C	D									
	60%以上	50%以上	40%以上	40%未満									
3年生希望進路の実現	<p>系統的かつ計画的に進路ホームルームや進路ガイダンスを実施するとともに、学年部や保健部と連携し個に応じた指導を行う。</p> <p>〔就職における一次内定率〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満				
A	B	C	D										
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満										
1、2年生の進路意識の向上	<p>インターンシップの実施、オープンキャンパスや企業説明会への参加を促し、自ら積極的に進路について考え、行動する力を身につけさせる。</p> <p>〔2学期に実施する進路希望調査において、進路を明確にした生徒の割合〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	70%以上	60%以上	50%以上	50%未満				
A	B	C	D										
70%以上	60%以上	50%以上	50%未満										

ビジネス科学科	探究活動による地域創生教育の実践	<p>探究活動を通して地域課題を発見し、調査や研究、分析を実践することで思考力・判断力・表現力を育成する。同時に、研究発表や課題解決の提案につなげる。また、各種取組の企画や運営に対して積極的に参加し、次世代の担い手として地域活性化に貢献できる能力を養う。</p> <p>〔地域創生活動の実践回数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7回以上</td> <td>5回以上</td> <td>3回以上</td> <td>3回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	7回以上	5回以上	3回以上	3回未満			
	A	B	C	D									
	7回以上	5回以上	3回以上	3回未満									
主体的な学習態度の育成	<p>商業教育を通して、変化の激しい時代を生き抜くために必要なコミュニケーションスキルや主体的に学習に取り組む姿勢を育む。また、ICT機器を積極的に活用し、各種検定試験や競技会への参加、作品応募など、学習成果の向上を目指した指導を徹底する。</p> <p>〔各種検定試験合格者数（のべ人数）〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36人以上</td> <td>26人以上</td> <td>20人以上</td> <td>20人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	36人以上	26人以上	20人以上	20人未満				
A	B	C	D										
36人以上	26人以上	20人以上	20人未満										
効果的な広報活動の推進	<p>高大連携や企業連携など、広報活動に必要な最新で専門的な知識やスキルを習得させる。同時に、映像コンテンツやポスター制作の成果物を活用した広報活動を展開する。また、SNSによるコンテンツ配信の活用方法の研究や分析を重ね、効果的な広報活動を目指す。</p> <p>〔広報活動における生徒の肯定的評価の割合〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>40%以上</td> <td>40%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	40%以上	40%未満				
A	B	C	D										
80%以上	60%以上	40%以上	40%未満										
国語科	基礎的な国語力の向上	<p>漢字・語彙・文法事項など、国語の基礎知識に関わる小テストを全学年で、年間を通して定期的に行い学力の定着を図る。また、漢字検定を複数回校内実施する。</p> <p>〔漢字検定受検者の合格率〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満			
	A	B	C	D									
	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満									
鑑賞・表現力の向上と読書指導の充実	<p>全学年を通して表現活動を積極的に取り入れるとともに、校内での掲示や校外のコンクールなど他者の評価を受ける機会を設けることで、資質能力の向上を目指す。また、学校図書館司書と協力し読書に慣れ親しむ態度を育成する。</p> <p>〔コンクール等に作品を応募した回数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回以上</td> <td>4回以上</td> <td>2回以上</td> <td>2回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	6回以上	4回以上	2回以上	2回未満				
A	B	C	D										
6回以上	4回以上	2回以上	2回未満										
スマートスクール化の推進	<p>タブレットやスマートフォンなどのICT機器を活用し、より深い学びに向けた授業改善を行う。また、校内外を問わず研修会等に積極的に参加し、本校生徒の実態に応じた活用方法を模索する。</p> <p>〔ICTを取り入れた公開授業の回数〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回以上</td> <td>3回以上</td> <td>2回以上</td> <td>2回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	6回以上	3回以上	2回以上	2回未満				
A	B	C	D										
6回以上	3回以上	2回以上	2回未満										
地歴・公民科	学校設定科目の充実	<p>地域の歴史・文化、地域が抱える諸課題について、関係諸機関との連携を図りながら、フィールドワークや施設見学、専門性の高い講演等を実施し、生徒の思考力・判断力を育成を図る。</p> <p>〔学校特設科目の内容における生徒の肯定的評価の割合〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満			
	A	B	C	D									
	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満									
生徒を伸ばす学習指導	<p>毎時間の単元目標を明確にし、ICT機器を有効的に活用しながら、各科目における基本的事項の習得を目指す。</p> <p>〔1年生、2年生、3年生における「確認テスト」の合格率〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満				
A	B	C	D										
95%以上	80%以上	50%以上	50%未満										
自ら学ぶ姿勢の育成	<p>自ら「問い」を立てる力の育成を図り、問題解決のため、適切な情報収集の力を身に付け、研究発表や課題解決の提案を行う。</p> <p>〔上記内容における生徒の肯定的評価の割合〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>80%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	80%以上	50%以上	50%未満				
A	B	C	D										
95%以上	80%以上	50%以上	50%未満										

数学科	計算などの基礎学力の向上 数学的な考え方を通した論理的思考力の習得	授業のユニバーサルデザイン化を図るとともに、体系的に分かりやすい授業を行う。また、数学が苦手な生徒に対しては補習を行う、得意な生徒に対しては進学講習等を活用するなどして、個に応じた教育の充実を図る。 〔定期考査における平均点が60点以上である講座数〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7講座以上</td> <td>5講座以上</td> <td>3講座以上</td> <td>3講座未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	7講座以上	5講座以上	3講座以上	3講座未満			
	A	B	C	D									
	7講座以上	5講座以上	3講座以上	3講座未満									
数学を主体的に学ぶ意欲の向上	授業を通して生徒に数学の良さを伝えと共に、実用数学技能検定の受験を積極的に薦め、自ら学ぶことができる生徒の育成に努める。 〔実用数学技能検定の年間受験者数〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7人以上</td> <td>5人以上</td> <td>3人以上</td> <td>3人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	7人以上	5人以上	3人以上	3人未満				
A	B	C	D										
7人以上	5人以上	3人以上	3人未満										
教員の指導力の向上および自己研鑽による専門性の向上	教科会議等で各クラスの状況を意見交換し、質の高い授業の維持に努める。また、ICTの活用や効果的な指導方法について意見を出し合い、常に授業力向上を図る。 〔ICT機器を使用した授業回数（年間）〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50回以上</td> <td>35回以上</td> <td>20回以上</td> <td>20回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	50回以上	35回以上	20回以上	20回未満				
A	B	C	D										
50回以上	35回以上	20回以上	20回未満										
理科	自然科学に対する理解	自然科学における基本的な用語・概念を理解させ、自然現象を科学的に読み解く力を養う。 〔定期考査における得点率（全生徒の平均値）〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>40%以上</td> <td>40%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	40%以上	40%未満			
	A	B	C	D									
	80%以上	60%以上	40%以上	40%未満									
実験・観察	実験・観察を通して、自然科学の分析方法を学び、自ら考えようと力を身につけさせる。 〔授業における実験・観察活動の実施回数〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9回以上</td> <td>6回以上</td> <td>1回以上</td> <td>1回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	9回以上	6回以上	1回以上	1回未満				
A	B	C	D										
9回以上	6回以上	1回以上	1回未満										
進学講習・就職講習	希望者に、適宜講習を設定し、希望進路の実現に結びつける。 〔進学講習・就職講習の実施回数〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15回以上</td> <td>10回以上</td> <td>5回以上</td> <td>5回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	15回以上	10回以上	5回以上	5回未満				
A	B	C	D										
15回以上	10回以上	5回以上	5回未満										
保健体育科	運動の技能の向上 体力の向上	自己の運動機能や体力の課題を見つけ体力の向上を図る能力を育成する。 〔スポーツテストの結果を分析し、自らの目標を設定する〕学年毎の判定結果 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A判定5名以上</td> <td>A判定2名以上</td> <td>C判定7名以下</td> <td>D判定0名</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	A判定5名以上	A判定2名以上	C判定7名以下	D判定0名			
	A	B	C	D									
A判定5名以上	A判定2名以上	C判定7名以下	D判定0名										
ICT機器を活用した授業の実施（保健・体育）	ICT機器を活用し、座学に限らず、視覚に訴え、よりわかりやすい授業を展開する。 〔保健・体育におけるICT機器の活用率〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	80%以上	60%以上	60%未満				
A	B	C	D										
100%	80%以上	60%以上	60%未満										

英語科	進路に向けた英語力の向上	プリント課題や単語テスト、ノート作りの指導を徹底し、家庭学習の習慣を確立させる。 実用英語検定の受検を推進する。 〔実用検定検定試験受験者数〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5人以上</td> <td>3人以上</td> <td>1人以上</td> <td>0人</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5人以上	3人以上	1人以上	0人			
	A	B	C	D									
5人以上	3人以上	1人以上	0人										
	言語活動の活性化	AETを活用し、コミュニケーション能力を育成する。 授業中の言語活動を推進する。 〔言語活動を取り入れた授業の割合〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>30%以上</td> <td>20%以上</td> <td>10%以上</td> <td>10%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	30%以上	20%以上	10%以上	10%未満			
A	B	C	D										
30%以上	20%以上	10%以上	10%未満										
家庭科	基礎的・基本的な知識と技術の習得	授業を通し、生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭生活を充実向上させる能力と実践的な態度を育てる。 〔アンケートにおける学習内容が理解できたという生徒の割合〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	70%以上	50%以上	50%未満			
	A	B	C	D									
90%以上	70%以上	50%以上	50%未満										
	生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	実習を通し、実践的・体験的な活動を行うことで「生きる力」を身に付け、課題を解決するために工夫し自立的に生きる基礎を培う。 〔実習内容が家庭生活で生かされていると評価した生徒の割合〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	70%以上	50%以上	50%未満			
A	B	C	D										
90%以上	70%以上	50%以上	50%未満										
情報科	課題の提出	毎週課せられる実習の課題に積極的に取り組み、期限を守って提出できるよう指導を徹底する。 〔期限内課題提出率〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満			
	A	B	C	D									
	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満									
	情報機器を用いたプレゼンテーション	プレゼンテーションの能力や技術を身に付けさせる。 〔1講座あたりのプレゼンテーションを実施した回数〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3回以上</td> <td>2回以上</td> <td>1回以上</td> <td>1回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3回以上	2回以上	1回以上	1回未満			
A	B	C	D										
3回以上	2回以上	1回以上	1回未満										
	スマートスクール化の推進	タブレットやスマートフォンなどのICT機器を活用し、より深い学びに向けた授業改善を行う。また、校外外を問わず研修会等に積極的に参加し、本校生徒の実態に応じた活用方法を模索する。 〔1講座あたりのICTを取り入れた授業の回数〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>7回以上</td> <td>4回以上</td> <td>1回以上</td> <td>1回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	7回以上	4回以上	1回以上	1回未満			
A	B	C	D										
7回以上	4回以上	1回以上	1回未満										
福祉科	社会福祉に関する基礎的・基本的な知識の習得	授業を通し、社会福祉の目的や理念を理解するとともに、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を習得し、福祉制度や各種サービスについて理解している。 〔アンケートにおける学習内容が理解できたという生徒の割合〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満			
	A	B	C	D									
80%以上	60%以上	50%以上	50%未満										
	積極的なボランティア活動への参加	地域社会の一員としての高い意識を持ち、積極的にボランティア活動に参加する。 〔ボランティア活動に参加した生徒の割合〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満			
A	B	C	D										
80%以上	60%以上	50%以上	50%未満										